

【手法】

バイオマス資源

メタン発酵

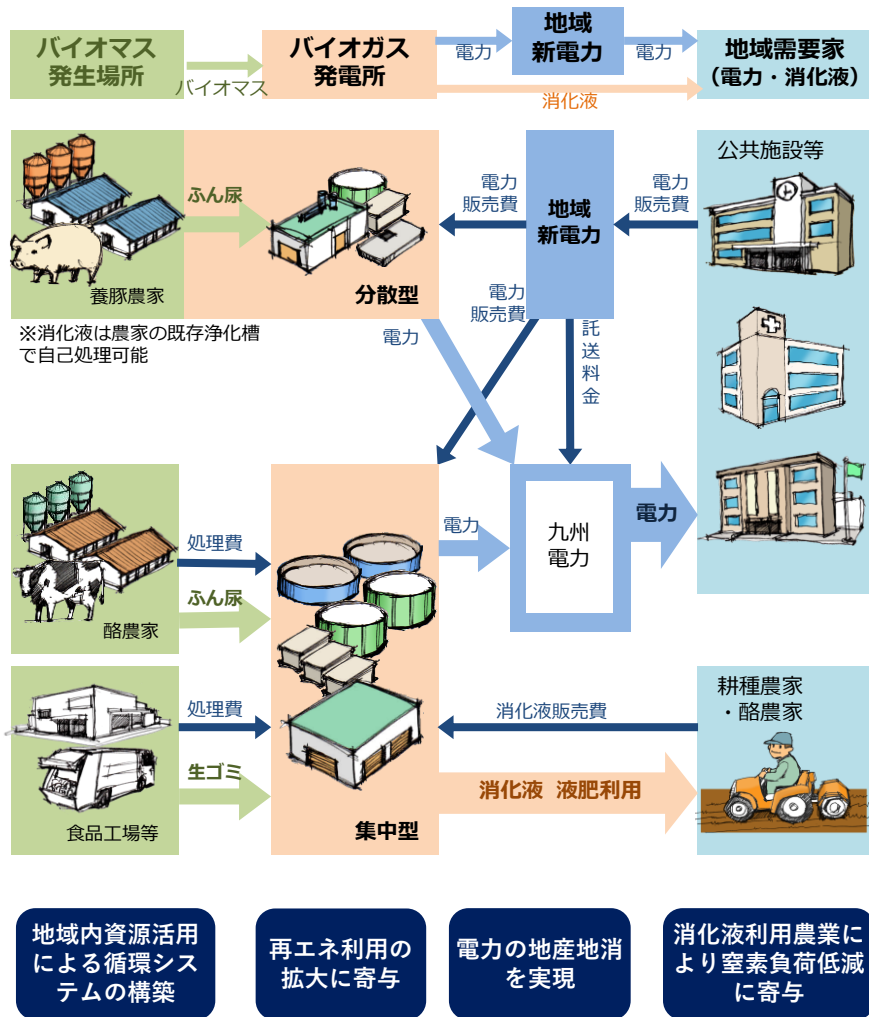
消化液利用

【目的】

再エネ拡大

環境改善

1. 事業イメージ (目標年度：2030)



2. 事業概要

【目的】再エネ導入拡大と硝酸性窒素等による地下水汚染改善を目指し、県内各自治体へ展開可能な地域バイオガス発電事業のモデルを形成する。

【手段】家畜ふん尿を利用した地域バイオガス発電プロジェクトの導入、消化液を液肥として活用できる体制づくり

【特徴】原料性状や地域の利用可能量を勘案した「集中型」・「分散型」双方のバイオガスプラント検討を行い、地域のバイオマスの発生状況にマッチした環境形成を目指す。

3. 事業効果(目標年度：2030年度、基準年度：2018年度)

【二酸化炭素排出削減効果】9,751 t-CO₂/年

【再生可能エネルギーの利用量(電力)】21,346 MWh/年

【地域経済付加価値】約320 百万円/年

【地域課題の解決】

バイオガス発電事業の導入により、再生可能エネルギー利用が拡大するとともに、畜産ふん尿の適正処理が推進され、硝酸性窒素等の地下水汚染の低減に寄与する。関連して原料運搬やプラント運営などでの雇用等の創出を目指す。

4. 事業体制

長崎県	【代表者】	・コンソーシアムの設立・運営
株式会社チョーブロ	【発電事業者】	・原料選定/調達方針検討 ・バイオガス発電事業の導入検討・提案
パシフィックコンサルタンツ 株式会社九州支社	【調査支援】	・地域課題の分析 ・事業可能性調査

5. 事業スケジュール

★基準年度 (現在)	2020	★目標年度
2018～2019		2030
▲ 調査	▲ 第1号プラント導入	▲ 目標台数の達成
	<ul style="list-style-type: none"> ・島原半島内に第1号プラントを導入 ・消化液の液肥としての活用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・島原半島内における発電プラント目標台数を達成

別紙

【手法】

バイオマス資源

メタン発酵

消化液利用

【目的】

再エネ拡大

環境改善

①自治体の基礎情報

【規模】

	諫早市	雲仙市	島原市	南島原市
人口	135,285人(H30.10.31)	44,134人(H30.10.31)	45,360人(H30.10.31)	46,257人(H30.10.31)
世帯数	52,715世帯(同上)	17,381世帯(同上)	19,688世帯(同上)	18,979世帯(同上)
面積	341.79km ² (H29.2.28)	214.31km ² (H28.10.1)	82.97km ² (H27.3.6)	170.11km ² (H29.12.1)
予算規模 (H30一般会計)	604億円	294億円	248億円	300億円

【立地】

島原半島は長崎県南東部に位置し、外周100km程の火山性大地。長崎県最高峰の雲仙岳を中心に周囲三方を海に囲まれており、各所に温泉が所在しており、温泉郷として親しまれている。「ユネスコ世界ジオパーク」にも認定されている、豊かな湧水や雄大な自然を持つ地域。本事業では、島原半島（雲仙市・島原市・南島原市）および諫早市の4市を事業対象地域として検討を実施。

交通アクセス：福岡市内より車で約1.5時間(諫早市)/約2時間10分(雲仙市)/約2時間50分(島原市)/約3.5時間(南島原市)

【産業】

農業(米)・半導体・航空宇宙関連・食品加工業(諫早市)

農業(米・野菜・畜産)・漁業・観光業(雲仙市・島原市・南島原市)

②各主体の参画理由

【長崎県】

県内畜産業における課題である硝酸性窒素等による地下水汚染の課題低減策として、バイオガス発電事業導入を通じて再生可能エネルギーを導入すると共に家畜ふん尿の適正処理を推進することによる取り組みの拡大、地域課題の低減を図るため。

【株式会社チョープロ】

地域資源を活用したバイオガス発電事業を通して、地域産業である農業および畜産業へ貢献することを目的に、従来よりバイオガス発電事業の事業化検討を行っており、検討を加速化するため。

【パシフィックコンサルタンツ株式会社九州支社】

バイオガス発電事業導入における各種検討、対象地域における地下水汚染課題の実態把握や対策検討等の経験を活かし、対象地域における課題解決に貢献するため。